

南蒲生で生き残った植物(1)

蒲生干潟では、津波によって海浜そのものが消失し、現在見られる砂浜の大半は津波後に再堆積してできた海浜です。したがって津波に耐えたヨ



シ群落の一部を除いて、無植生といっても良い状況にあります。

ところが南蒲生の一区画にだけ、海浜植物が豊富な場所が残されていました。仙台湾岸周辺で生育していた貴重な群落です。写真はハマヒルガオとコウボウムギです。津波前の蒲生干潟に群落をつくっていた植物です。

ハマヒルガオは大変肉厚な葉を持ち、塩分濃度の高い立地でも生き残ることができます。蒲生干潟にも広く分布していました。

コウボウムギはハマヒルガオよりもさらに海に近い立地で群落をつくる仲間です。ムギという名前を持ちますが、食用にするムギ(イネ科)の仲間ではなくカヤツリグサ科に属します。

どちらも仙台湾岸のDNAをもつ貴重な生き残り植物です。



左上：広い範囲で花をつけたハマヒルガオ
左下：ハマヒルガオの開花
右：コウボウムギ